

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2690600040		
法人名	医療法人 社団 都会		
事業所名	グループホーム 一乗寺ほっこり庵		
所在地	京都市 左京区 一乗寺宮ノ東町37		
自己評価作成日	令和元年10月30日	評価結果市町村受理日	令和2年2月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2690600040-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	令和元年12月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所では常に入居者主体で、外出や食事等の希望や意見を取り入れ対応している。食事は1日3食手作りで提供し、天候が良ければできるだけ外出できるよう取り組んでいる。そして入居者一人ひとりの能力に合わせた役割づくりやレクリエーション、体操、買い物など日々生活リハビリと考え活動している。また、家族と入居者の良い関係が継続できるよう足を運びやすい環境を整えたり、職員と家族で十分にコミュニケーションを取り信頼関係が築けるようにイベント開催し働きかけしている。また、地域に根ざしたグループホームになるように、地域の方を招いたイベントの実施や地域行事への参加を積極的に行なっている。そして、医療法人という強みを生かし、ご希望であれば最期までその人らしく安心して暮らしていただける施設である。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは個々の利用者がその人らしく暮らせるよう職員間で意見を出し合うことを大切に考え職員会議は全員が参加し行われており、利用者が重度化中でも音楽レクリエーションやカラオケを楽しんだり、散歩をはじめ個別外出、家族との外出には送迎の支援をする等、利用者中心のケアに努めています。地域との関係も良好で地域行事への参加やホームの夏祭りには地域の方の来訪があり、また中学生を対象とした認知症あんしんサポート講座を受けた子ども達にフォロー講座を行い認知症に対する理解を深める取り組みにも参加しています。また、母体が医療法人であり協力医や訪問看護との連携が良く体調不良時の対応が速やかになされ、胃腸の対応や看取り支援にも取り組み、更に理学療法士によるリハビリ計画が立てられ実施しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域とのつながりを大切に考えており、理念の中にも取り入れている。毎年事業計画を職員全員で立てており、その中にも地域の中で暮らせるように具体策を上げている。	法人の理念は年に1～2回理事長から話してもらう機会があり、また年に2回管理者との面談時にも伝えていきます。開設時に法人の理念の基に作成されたホームの理念は玄関に掲示しています。毎年事業計画は理念に基づき職員間で意見を出し合い作成し実践に向けて取り組み、毎月進捗状況を確認し6か月毎に振り返っています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日頃の挨拶はもちろん地域のお祭り、音楽会、運動会の参加や準備のお手伝いを行っている。また、一乗寺ほっこり庵で地域の方も参加できるイベントも行っている。町内会の運営に協力している。	自治会に入会し回覧板作成の役割を担い、また地域行事の情報を得て地域清掃や大根炊き、区民運動会、あじさい祭り等に参加しています。ホームの夏祭りには多くの地域の方の来訪があり、着付けや大正琴等のボランティアの協力の下開催し交流を楽しんでいます。日々には掃除や傾聴、レクリエーション等のボランティアも受け入れています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域中学生対象の認知症あんしんサポート講座に参加し、フォローアップ講座では、認知症について講義を行っている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域運営推進会議として二カ月に一度開催し、一乗寺ほっこり庵の活動を報告している。その中で意見を頂く時間を設け、ご意見を反映できるように努めている。	会議は家族や町会長、地域包括支援センター職員等の参加の下2か月に1回開催しています。利用者の状況や職員配置、ホームの活動として行事や訓練、身体拘束廃止の取り組み等を写真を見てもらいながら報告し、参加者と意見交換をしています。地域の行事の情報を知らせてもらい参加に繋げたり、食事作り等の課題について説明する機会とする等有意義な会議となっています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域運営推進会議の議事録を送付している。分からないことがあれば、その都度電話にて聞くようにしている。	制度のことや運営上わからない事などは電話で市の担当者に聞き、運営推進会議の議事録は送付しホームの実情を知ってもらっています。事業所連絡会に出席したり、研修の案内があれば受講しています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強会を毎月行っている。施錠に関しては、危険な場所に限り行っている現状だが、あくまでも危険回避の理由なので外出を希望されている時は一緒に外出している。	身体拘束についての研修を法人及びホームで年に1回ずつ行い、毎月の勉強会で研修内容を確認しています。日中玄関の施錠はせず外に出たい様子があれば一緒に出掛けられるようにし、言葉による制止にも注意を払い拘束感の無い暮らしを支援しています。家族に説明しセンサーを使用している利用者がいますが、利用者にとって安全な移動の支援となるよう職員は認識して使用しています。		

グループホーム一乗寺ほっこり庵

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を開いたり、職員個々に研修に参加したり、運営会議の中で話し合うことで、虐待について全員が正しい理解を深め、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内の全体研修や事業所内の勉強会で、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学んでいる。しかし、まだ活用したことはない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約書を元に説明し、その際に疑問などについても聞き取り、十分に説明を行っている。また、不明な点があればいつでも返答させて頂くことも伝えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時にはもちろん、地域運営推進会議やアンケート(無記名)によりご意見を頂けるように努めている。また、法人内にサービス向上委員会を設置し、その中で苦情等についても話し合い、運営に反映している。	利用者との日々の関わりの中から聞かれた食べたい物等の要望は献立に取り入れるなど反映しています。家族からは面会時や電話を掛けた時、運営推進会議、年に1度のアンケートを行い意見や要望を聞いています。重度化に伴う医療への不安の言葉がみられ往診結果の報告や医師との面談の機会を作ったり、意見を受けて年に2回の大掃除の取り組みや利用者の日々の過ごし方の工夫を行う等、サービスの向上に繋がっています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営会議や個人面談、日々の業務中の会話において意見や提案を聞き、随時運営に反映させている。	日々職員間で意見を言いやすい雰囲気がありコミュニケーションを取り、毎月行う職員会議は全員参加し、活発に意見交換をしています。業務改善についての意見が多く、利用者との関わりを多くするために夜間できる業務を整理する等意見を運営に活かしています。また教育や災害対策、地域活動等の委員会があり職員は役割を持って意見や提案をしています。年に2回個人面談も行い普段言えないことも聞くように努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価表を用いて、各職員が目標を立て、その達成に向けた具体策を挙げている。また、個人面談を行い、相談できるようにしている。連続の勤務や残業は極力しなくないように環境整備をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者が職員のレベル・ニーズに合わせ、段階的に研修を受けられるように手配。また、自主的に研修が受けられるようにスタッフルーム内に研修案内を掲示している。法人内でも二ヶ月に一度の全体研修や毎月の会議内で行う勉強会など職員の学ぶ場を提供している。		

グループホームー乗寺ほっこり庵

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎年認知症グループホーム大会に参加し、演題発表を行っている。また、認知症介護実践者研修やリーダー研修にも毎年申し込み、同業者との交流のきっかけ作りをしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に自宅で面接を行い、生活歴や要望等を聞いたり、部屋の環境を見させてもらっている。入居に前向きではなかった人に対しては、入居前に何度も会いに行き、関係作りを行った。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族に関してもご本人同様、要望など聞き取りを行い、ケアへ活かしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族から事前に聞き取ったことを中心にケアプランを立てている。その他のサービス利用も訪問リハビリなど必要に応じて導入している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常日頃から全員意識しており、全てのケアはこの考えを元に行っている。また、介護する側、される側ではなく、同じ場所で同じことを共有するすぐ身近にいる存在として関係作りを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居してからも関係を持ち続けてもらえるように可能な限り面会に来てもらえるよう伝えさせてもらっている。また、全てを職員が行うのではなく、ご家族にも受診や外出、イベントの参加をお願いしている。面会時や電話にて近況報告も行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	特に面会時間を設けず、いつでも来所して頂けるようにする中で親戚や友人の面会があったり、馴染みの人との外出も気軽に行えるよう支援している。	親戚や友人の来訪時にはリビングや居室など過ごす場所を選んでもらったり、一緒に外出する方もいます。家族と自宅に帰る方には外出準備を行い、馴染みの喫茶店や墓参りには職員が送迎を行うこともあります。また以前の教え子の来訪やそのクラス会への出席をする際の送迎など馴染みの関係継続の支援に努めています。年賀状の代筆等の支援もしています。	

グループホーム一乗寺ほっこり庵

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中は基本的にフロアで過ごす方が多い為、孤立すること無く過ごさせている。しかしながら言葉を使った関わり合いができない方が多い為、日々の挨拶や食事、レクなどで関係継続ができるような支援をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所に移られた方に、入居者を連れて会いに行ったりしている。また、必要に応じてご家族からの相談にも乗っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃から入居者の思いや希望を聞き取るように努めている。また、その内容を記録に残し、それにより全員で把握出来るようにも努めている。意思確認が難しい場合はご家族から情報をもらって検討している。	入居前には自宅や病院等生活している所で面談し、生活歴や習慣、希望等を聞き、入居後に更に詳しい馴染んだ場所や人、好み等を担当者を決めて情報収集してアセスメントシートに纏めています。日々の関わりの中で利用者の言動を記録に残し職員間で共有し思いを把握するように努め、把握困難な方はケア会議で検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族から入居前に聞き取りを行い、フェイスシート等を作成している。また、センター方式を利用することで一人ひとりのこれまでの暮らし方などを整理し職員全員が把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録や身体情報の記録等を利用し現状の把握に努めている。また、日々の申し送りや運営会議の中で気付いたことや注意すべきことなどを話し合うようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々関わる中でニーズを拾いあげている。ご家族からは面会時や地域運営推進会議時に近況報告すると共に意見を頂いている。それをもとにケアプランを作成している。また、定期的にケア会議を開催し、ケアプランの見直しを行っている。	利用者や家族の思い、アセスメントを基に介護計画を作成しています。毎月モニタリングを行い利用者に変化のあった時に見直し、変化のない場合は6か月毎に見直しています。見直しに当たっては家族の思いや医師から意見を聞いた上で再アセスメントを行い、ケア会議を開き検討しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録にその時々の様子や発言、職員の気付いたことやアイデアを記録し、申し送りや運営会議を通して職員間で情報を共有し実践やケアプランの見直しに活かしている。		

グループホーム一乗寺ほっこり庵

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在、既存のサービスを越えたニーズというものは具体的にはないが、ニーズが生まれた時には柔軟に対応したい。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の祭、小学校での音楽会・運動会などイベントには積極的に参加している。また、神社にお参りに行ったり、スーパーへの買い物、喫茶店でのコーヒーなど外出している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療連携体制をとっているため、月2回の訪問診療と緊急時に連絡することで臨時の往診もしてもらっている。馴染みの病院へ定期的に受診される方もおられる。	入居時に今までのかかりつけ医を継続できることを説明し、専門医を継続している方はいますが、全員がホームの協力医の往診を月2回受けています。週に1回訪問看護による健康管理を受け、24時間連絡可能であり利用者の体調不良の際などはアドバイスをもらったり、医師に繋いでもらい往診を受ける等連携ができています。3か月ごとに理学療法士によるリハビリ計画が立てられ取り組んだり、訪問歯科や訪問マッサージを希望や必要に応じて受けている方もいます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携の診療所よりから週一回に来院がある。また24時間体制で連絡可能。来られた時に一人一人の状態を伝え、相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、介護サマリーを提出している。入院中は、面会を重ねながら病院関係者とご家族と今後の事を話し合っている。退院後も安心して過ごしてもらえるよう医療面も含め、バックアップ体制をとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	まず契約時に重度化した場合や終末期のあり方について説明させてもらっている。また、必要に応じて主治医・ご家族・職員で現状や今後について話し合っている。	入居時に重度化や看取りの対応指針を説明し、本人や家族の意向にそって看取り支援も行うことを伝えていきます。重度化した時に医師から状況を説明してもらい三者で話し合い対応を決め、泊まる家族もおり協力を得ながら思いを都度確認し支援しています。医師から研修を受けたり経験のある職員が心構え等を伝えながら看取り支援に取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成し、職員に周知徹底している。医療的な知識を身につける為の勉強会や研修にも参加している。		

グループホーム一乗寺ほっこり庵

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を実施。内1回は消防署立会の下に行っている。地域の方には地域運営推進会議を通して協力を要請している。飲料水や米飯などの備蓄を用意している。法人内で災害対策委員会を立ち上げ、災害対策研修も実施している。	年に2回行う消防訓練の内1回は消防署の立ち会の下、昼夜を想定し通報や初期消火、職員が利用者役をして避難誘導の訓練を行っています。災害対策として発電機やランタン、おむつ類等の備品や水や缶ビスケットなどの食料を準備しています。運営推進会議で地域の方に訓練の案内や報告をしていますが参加はなく、職員が地域の災害訓練に参加しています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人にあった言葉かけ、対応をするよう努めている。間違った言葉かけや対応があったときは注意し合えるようにしている。また、法人内全体で接遇マナーの研修を行ない理解を深めている。	接遇マナー研修は入職時やサービス向上委員会が年に一度の研修や随時の勉強会を行う他、マナーチェックシートを使用して振り返りそれを基に面談を行っています。呼称は入居時に希望を聞き、日々の関わりは利用者を尊重し口調が強くないよう配慮しています。また、希望に合わせて入浴や排泄介助は同性介助を行っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々ゆつくりと話をしながら思いや希望を聞き出すようにしている。自己決定についても、食べたい物、着たい服、入浴等小さなことから自分で決められることについては決めてもらっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や就寝・起床時間など、一人一人のペースを大事にするよう努めている。また、急な外出などやりたいことがあれば極力対応するようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日の服の選択や髪の設定、お化粧など出来る限りのことをご本人に行ってもらっている。また、定期的に職員が毛染めや産毛を剃ったりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者のADLに合わせて、お茶入れ、配膳、台拭き、下ごしらえのお手伝いなどしている。食事は入居者の好みや季節を考慮し三食手作りで提供している。職員と一緒に準備から楽しんでしている。	献立は旬の物や希望を聞きながら立ててホームで手作りしており、利用者にはお茶を入れてもらったり配膳等に携わってもらい、職員も一緒に食べ和やかな食事の時間となっています。季節に合わせて鍋料理にしたり、希望に合わせて寿司等の出前を取る等、食事を楽しめるよう支援しています。年に一度ホテルでの外食や希望に合わせて個別外食の支援もしています。また、ぜんざいやクッキー、ゼリーなどのおやつを手作りすることもあります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は毎食後チェックしている。水分量についても摂取量を記録に残しチェックしている。好きな飲み物を飲んでもらったり、ゼリーを出したりと工夫している。		

グループホーム一乗寺ほっこり庵

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後に行っている。声かけと介助も交え、少しでもご本人の力を活かせるようにしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録を利用し、排泄リズムを掴むように心がけ、トイレの声掛けや誘導を行なっている。大半の方は紙おむつだが、布の下着の方は現状維持できるよう取り組んでいる。	利用者全員の排泄の記録を取り、立位の取れる方はトイレでの排泄を基本に個々の間隔やタイミングでトイレに行けるように支援しています。入居後紙パンツから布の下着に変えた方もおり、支援方法や使用する排泄用品はケア会議や必要に応じて話し合い自立に向かうように取り組んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や食事内容にも気を使っている。常に食物繊維を摂取したり、朝に乳製品を摂ったり、散歩やお手伝いなどで体を動かしてもらえるようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には希望に沿って入っていただいている。現状、見守り無しで入浴する方はいない。入浴拒否がある方も無理に入ってもらえないようなことはせず、楽しんで入浴してもらえるような関わりを心掛けている	入浴は曜日を決めず週に2～3回を目処に日中の時間帯を基本に湯を一人ずつ入れ替え好みの湯温にも気を配りながらゆっくり入ってもらっています。重度でシャワー浴のみの方がいますが、足浴や浴室の温度調整を行っています。入浴剤の使用や柚子湯や菖蒲湯などを行い楽しめるように支援したり、好みのシャンプーやリンスを持参している方もいます。拒否があれば時間や職員を変える等の工夫をしています。温泉に行きたいとの希望があり検討しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	おおよそ就寝時間は決めているが、これまでの生活歴をベースに入眠の声掛け・誘導を行なっている。また、眠れない時は原因を探りつつ、眠くなるまでフロアで一緒に過ごすなどの対応をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬リストをファイリングし、把握に努めている。また、薬剤師や主治医からも薬の説明を受け、全員での把握につなげている。症状の変化があったときは主治医に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割づくりは特に力を入れて行っている。歌が好きな方にカラオケしてもらったり、ドライブ、生け花、塗り絵など楽しみ事への援助も行っている。		

グループホーム一乗寺ほっこり庵

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日頃は敷地内外の散歩や外気浴、ドライブ、地域行事への参加など外出の機会をとっている。また、春や秋の食事会以外にもご家族の協力の下、お墓参りや法事・同窓会への参加など個別外出の支援に努めている。	日々の散歩は利用者の希望にそって出かけ、希望しない方にも週に1度は出かけたり玄関先で外気浴をしています。初詣や桜や紫陽花の花見、紅葉狩りなどの季節を感じられる外出行事を行っています。多くの地域行事に参加したり、個別にクラス会への出席や家族と一緒に墓参り等に出かける等外出の機会を多く作っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金に関しては施設が管理しているが、希望に応じて買い物等に使用できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望がある時は施設の電話を使ってもらっている。手紙のやり取りもご家族とされている方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温かみを感じられるように配慮している。飾りに関しては、時期ごとに入居者と一緒に作成し、季節感が感じられるようにしている。玄関やリビングには毎月季節の生花を飾っている。	檜の床や土壁など和風で木の温もりを感じられる共有空間は、間接照明や障子が設置され落ち着いた雰囲気があります。多くの生花やクリスマスなどの飾りつけを行い季節を感じられるようにしています。毎日換気や掃除を行い清潔を保ち、ソファセットの設置や利用者の状況に合わせてテーブルの配置を考えて過ごしやすい工夫をしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルやソファの配置を工夫し、みんなで過ごせる場所や、少し離れて少数、もしくは一人でゆっくり過ごせる居場所づくりをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みの家具や使い慣れた物を持ってきて頂き、住み慣れた家と同じようにすることで居心地よく過ごしてもらえるよう工夫している。	洗面台とクローゼットが設置されている居室には、入居時に使い慣れた物を持って来てもらうように家族に依頼し、ダンスや椅子、テーブル、テレビ、大切にしていた仏壇などの持参した物を本人や家族と相談しながら設置しています。以前描いた絵や自宅にあった絵やこけし、写真等を飾ったり、アルバムを傍に置く方、三味線を持って来る予定の方もおり、その人らしい居室作りに努めています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりをつけたり、伝い歩きがしやすいように家具等の配置をしている。また、居室前にそれぞれ表札や写真をつけ、自室の場所がわかるようにしている。		